ラフマット・ゴーベル氏およびディルク・エーラース氏への名誉博士学位の贈呈について

中央大学は、ラフマット・ゴーベル氏（インドネシア）およびディルク・エーラース氏（ドイツ）に対し、その功績を顕彰して名誉博士学位を贈呈しました。

これまでも文化の創造・発展、社会・人類の福祉に多大の貢献をした者に対し、その功績を顕彰するため、中央大学名誉博士（以下「名誉博士」という）の学位を贈呈しています。

第７代国連事務総長のコフィ・アナン氏（ガーナ共和国）やニューヨーク大学教授でノーベル経済学賞受賞者のワシリー・レオンチェフ氏（アメリカ合衆国）、コロンビア大学教授で同じくノーベル経済学賞受賞者のロバート・A・マンデル氏（カナダ）などに贈呈してきました。

ラフマット・ゴーベル氏の贈呈式は３月24日（月）帝国ホテルで、ディルク・エーラース氏の贈呈式は５月８日（木）多摩キャンパスでそれぞれ盛大に行われました。

本学Webサイトで検索

ラフマット・ゴーベル（Rachmat Gobel）氏への贈呈について

ゴーベル氏は1987年本学商学部商業・貿易学科を卒業し、インドネシア日本友好協会理事長およびパナソニック・ゴーベルグループ会長を務めています。

父子二代にわたり母国インドネシア共和国の発展と人材育成に尽力するとともに、インドネシア共和国と日本国との友好関係の伸展および福祉事業において、多大な貢献をされました。この度の贈呈は、その功績を顕彰するために贈呈するものです。

ディルク・エーラース氏（Dirk Ehlers）氏への贈呈について

エーラース氏はドイツ公法学界の重鎮であり、国法学・行政法・教会法の３分野で教授資格を取得され、ヴェストフェーリッシェ・ヴィルヘルム大学（通称ミュンスター大学）の正教授および経済公法研究所長・法学部長を歴任し、比較法研究と日独の学術交流の発展・深化においても枢要な役割を担われました。とりわけ、本学および日本比較法研究所との国際交流を通し、日独・日欧比較法研究および高等教育の進展に寄与されています。

今回のエーラース氏に対する名誉博士学位贈呈は、氏が中央大学とミュンスター大学との確固たる結びつきに貢献されただけではなく、我が国の公法学とドイツの公法学を結びつける架け橋としての役割をも担われ、これまでドイツで公法学を学ぶ多くの研究者や学生に良好な研究環境を与えてこられた功績を顕彰したものです。

ボランティアセンター設立から１年を迎えて

5月23～25日に実施した女川スタディーツアー
女川向学館にて

中央大学では東日本大震災を大きなきっかけとして高まった学生たちのボランティアをしたいという「想い」を支援するため、2013年4月1日に「ボランティアステーション（2014年4月1日からボランティアセンターへ改称）」を学生課に設置し、専従のボランティアコーディネーターを中心に様々な企画等に取り組んできました。

ボランティアセンターは学内外のボランティア活動に関する情報収集・広報活動、相談・支援、学生の育成、調査・研究等、本学における学生ボランティア活動の拠点として、多くの方々のご協力を得て、この1年で着実な成果を残しています。

2014年6月14日（土）には、多摩キャンパス9号館クレセントホールにおいて、ボランティアセンター設立1周年記念シンポジウム「学生だって地域の力～災害支援から日常への支え合いへ、学生ボランティアの力とわがまちの防災力UP～」を開催しました。

マスカー（女川魚市場買受人協同組合冷凍冷蔵施設）にてお話をきく

隣接する明星大学、近隣の八王子市社会福祉協議会、日野市社会福祉協議会の共催・協力のもと、学生たちが震災からの復興支援ボランティア活動を通じて得た様々な経験や知識、技術を自らが暮らす地域に還元することを目指し、これまで各々で活動していた各機関が何度も打ち合わせを行い準備した結果、100名以上の方に参加いただき、今後の地域社会と大学との連携・協力の先駆けとなるイベントとなりました。

震災から3年以上が経過し、マスメディア等で関連するニュースが取りあげられる機会が減少するなか、震災以降の東北の今を知らない新入生に現地の状況を伝えるきっかけとしてのスタディーツアー、学生団体による特定地域での継続的な活動、そうした「現場」から得た学びを予測される次の災害の備えにつなげる防災プログラムなど、建学の精神「實地應用ノ素ヲ養フ」を体現するボランティアセンターに、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。